



相互協力協定に基づく 「人材育成交流事業」について

令和3年11月

相互協力協定締結から11年 — 東海大学海洋学部と 根室市のあゆみ



6月10日 相互協力協定を調印

水産業を活かした新産業の創出による地域振興、漁業資源増大対策の研究開発などを目的に相互協力協定を調印しました。加藤登海洋学部長が来根し、長谷川俊輔根室市長と協定書を手交。がっちりと握手を交わしました。

10月24日 初の高校生向け出前講座

共同研究テーマの「産業基盤を支える人材の育成」の取り組みとして講師に海洋学部の山田吉彦教授をお招きし、初の高校生向け出前講座が開かれました。山田教授は「根室の魅力を生かし、一緒に新しい根室を創ろう」と学生に呼び掛けていました。



7月21日 山下泰裕副学長による記念講演会

根室市の市制施行60周年の記念事業として、東海大学山下泰裕副学長により記念講演会が開かれました。初めて根室市を訪れたという山下副学長は「夢への挑戦」をテーマに、ご自身が柔道を通じて学んだことなどをお話し、夢を持つことの大切さを集まった市民皆様に熱く説いていただきました。

2013
(H25)

2014
(H26)

2015
(H27)

2016
(H28)

2017
(H29)

2018
(H30)

2012
(H24)

2011
(H23)

2010
(H22)



6月14日 海洋調査研修船「望星丸」初入港

共同研究テーマの「エコツーリズム」の研究開発に向けて、「望星丸」が教職員ら約70名を乗せ、根室市花咲港に初入港。「今なぜ欧米では魚食ブームなのか？」と題した記念講演が船内で開かれたほか、学部生たちが市内で史跡めぐりや水産加工実習などを体験しました。

2021年～
相互協力協定に基づく

人材育成交流事業

2021
(R3)

2020
(R2)

2019
(R1)



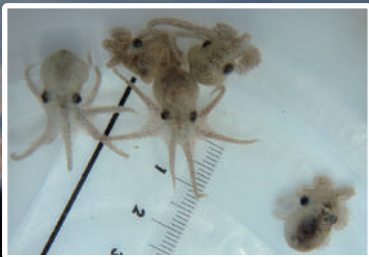
7月5日 松前義昭理事長 来根

東海大学の松前義昭理事長が来根。石垣市長を表敬訪問いただき、その後、東海大学の同窓生などにより歓迎会が開かれました。



建学祭での「北海道根室産さんま祭り」の開催

根室市の水産業を広くPRし、相互理解を深めることを目的に東海大学湘南キャンパスおよび静岡キャンパスでの建学祭において、根室産さんまの炭火焼きを提供する「北海道根室産さんま祭り」を開催しました。



ヤナギダコの資源増大に向けた共同研究

協力協定締結直後から取り組んでいるヤナギダコの共同基礎研究は、市においては産卵・ふ化技術の開発や成長過程の生態の解明を、東海大学海洋学部では、人工飼料の開発などを、お互いの得意分野を生かし研究を続けています。

東海大学海洋学部と根室市は平成22年6月に締結した「相互協力協定」に基づき、根室市における新産業の創出による地域振興のため、相互研究活動等について推進してきました。

「人材育成交流事業」は令和3年度からの新たな取り組みであり、将来の水産分野を担う人材の育成・交流を目的に、5つの事業を実施しました。今後もお互いの協力関係をさらに発展させ、未来に続く水産業を支える人材が生まれることを期待しています。



01 相互研究成果等に関する発表会

根

室市と東海大学海洋学部との連携を推進し、将来、水産分野を担う人材育成を図ることを目的に、根室市職員が東海大学海洋学部生に対し、これまでの相互研究成果等を発表しました。

本事業は、今年度、新たに実施した取り組みであり、本年は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、WEBを利用した「オンライン形式」にて開催しました。

日時

令和3年7月8日(木)

(東海大学海洋学部「食品栄養学」の授業内にて実施)

発表内容

「水産加工食品の開発」の取り組みについて

根室市水産加工振興センター
主幹 城田 博昭

ヤナギダコの採卵技法とふ化技術

根室市水産研究所
所長 工藤 良二

参加者

東海大学海洋学部水産学科 学生39名



海洋学部生と共同研究したサンマフライなど学校給食向け製品や海鮮パスタソースなどの地域特産種を使用した製品開発研究を紹介する城田主幹。高次加工製品の可能性について話しました。



解明されていなかったヤナギダコの生態などについて、共同研究成果を話す工藤所長。実際の種苗生産水槽をライブ配信するなど、オンラインならではの方法で説明しました。

02 「高大連携特別プログラム」への参加

東

海大学海洋学部において行われた「高大連携特別プログラム」に根室高校生2名が参加しました。根室高校の生徒が本プログラムに参加したのは初めてとなります。

本来であれば、東海大学海洋学部（静岡県静岡市）へ根室高校生を派遣する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急事態宣言の発出により、本プログラムが「オンライン開催」へ変更となったため、根室市役所内に会場を設営し、参加しました。

日時 令和3年9月18日(土)・19日(日)

参加者

北海道根室高等学校生徒2名

まつざわ こうすけ
松澤 昂典さん（1年生）

しまだ だいち
島田 大地さん（2年生）

「東海大学海洋学部 高大連携特別プログラム」とは

東海大学海洋学部の特色を活かし、全国の水産・海洋系高校との「教育交流協定」に基づき、海洋に対する興味や認識、問題意識を養うことを目的に高校生たちに多様な海洋に関する基礎的事項や最近の研究成果を講義するもので、2006年から実施されています。



齋藤寛学部長から東海大学海洋学部の概要を聞く生徒たち。熱心にお話を聞いていました。



オンラインで講義を受けた二人は「海や海の生き物に興味があるので、楽しかった。進路選択にも役立てられる」と話していました。

03 海洋学部生による 根室高校生向け講演会

東 海大学海洋学部4年生の中村咲希さんを講師に招いた高校生向けの講演会を開催しました。中村さんは教職課程を履修している点や食品開発プロジェクトでの成果により、後藤慶一教授からの推薦を受け、「自分の成長につながる」と感じ講師を引き受けていただいたとのこと。

海洋学部生が根室の高校生へ講演を行うのは初めての試みで、水産分野の話のみでなく、高校生と年齢の近い先輩ならではの進路選択のアドバイスなどもお話いただきました。

日時 令和3年10月12日(火)

講師 東海大学海洋学部
水産学科食品科学専攻4年生 中村 咲希さん

参加者 北海道根室高等学校 1・2年生 約300名

講義内容

- ・東海大学海洋学部の紹介
- ・中村さんの進路決め、大学探しの体験談
- ・大学での授業や学校生活について
- ・商品開発プロジェクトでの活動内容、苦労話・成功談について



高校生の前で講演する中村さん。「私の話を聞いて高校生の皆さんの将来に向けた選択肢が少しでも広がれば幸い」と笑顔を見せていました。



生徒代表による中村さんへの謝辞。「海と縁深い根室市に住んでいるので興味深い話ばかりだった。海洋生物の研究が面白そう」と話しました。

04 海洋学部生による職業体験実習

水

産業に関わる現状と課題を学び、現場実習を通じて、将来、水産業や地域振興に携わる仕事に就くことを志す学生のスキルアップ支援を目的に、根室市水産関連施設において職業体験実習（インターンシップ）の受け入れを行いました。

職業体験実習のほか、根室市内で見学実習を行い、株式会社 藤井水産 代表取締役社長 藤井 景介 様（東海大学卒業生）のご協力で、工場見学のほか「いくら作り」を体験いただきました。

日時 令和3年11月1日(月)～5日(金)

参加者

①栽培漁業研修コース（於：根室市水産研究所）

後藤 紗弥子さん（東海大学海洋学部 水産学科 生物生産学専攻3年）

由井 颯希さん（"）

内海 さくらさん（"）

②水産加工・食品衛生研修コース（於：根室市水産加工振興センター）

鈴木 雄太さん（東海大学海洋学部 水産学科 食品科学専攻3年）

北村 慎哉さん（"）

田村 桃子さん（東海大学海洋学部 水産学科 生物生産学専攻3年）



05 根室高校生による 大学体験事業

9

月にオンライン開催で行われた「東海大学海洋学部高大連携特別プログラム」に参加した高校生2名を東海大学静岡キャンパスへ派遣し、海洋学部で行われている講義や実験などを実際に体験する『大学体験事業』を実施しました。

参加した高校生は、「海洋生物に興味があったのでとても楽しく、勉強になった。」「東海大学海洋学部がどのような大学か分かったので、参加してよかった。今後の進路選択の参考にしたい。」などと感想を話していました。

日時 令和3年11月7日(日)・8日(月)

参加者

北海道根室高等学校生徒2名

まつざわ こうすけ
松澤 昂典さん(1年生)

しまだ だいち
島田 大地さん(2年生)

※「東海大学海洋学部高大連携特別プログラム」参加者

体験内容

- ・東海大学海洋科学博物館の見学
- ・東海大学自然史博物館の見学
- ・講義・実験の見学
- ・静岡キャンパス各種施設見学
- ・三保サーモン養殖施設見学 など



新聞での紹介

相互研究成果等に関する発表会

令和3年7月9日 北海道新聞



水産加工の取り組みについて画面越しに学生に紹介する城田博昭主幹

水産加工研究の成果紹介

【根室】市は8日、相互協力協定を結ぶ東海大海洋学部（鶴岡市）の学生39人に共同研究の成果を紹介する発表会をオンライン形式で開催し、水産分野の人材育成や交流を図ろうと、今回初めて実施した。

この日は市水産加工振興センターの城田博昭主幹と市水産研究所の工藤良二所長が水産研究所から講演。城田主幹は、根室ではサンマやサケの水揚げが急減し「豊富な水産資源を前提とした従来の水産加工業は成り立たなくなってきた」と説明。同学部の学生が提案した海鮮バスコースが商品化され、ふるさと納税の返礼品に活用されていることなどを例に高次加工製品の可能性について話した。

工藤所長は「ナギタコの水揚げ量は15年前に比べ8割減少し、資源維持に向けた種苗放流に取り組んでいることを紹介。抱卵したメスタコの採取から稚タコのふ化までを効率的に行う仕組みについて、実際の水槽をカメラで映しながら話した。学生からは「繁殖に使った稚タコは利用できないか」「種苗生産の費用対効果は」など活発に質問が上がっていた。

市と同学部は2010年6月に協定を締結した。学生を受け入れての水産加工品の開発や、ナギタコの種苗生産の研究を進めている。

(武藤里美)

根室市 東海大生と意見交換

東海大生に研究成果披露 根室市 相互協力協定で発表会

【根室】市は8日、新座を使った形式に変わった。市農産物を出発的に相互協力協定を結ぶ東海大海洋学部ナギタコの加工技術などを披露するオンライン発表会を初めて行った。本来なら市職員を同学部にも招待する計画だったが、新型コロナウイルスによってインターネット

【根室】市は8日、新座を使った形式に変わった。市農産物を出発的に相互協力協定を結ぶ東海大海洋学部ナギタコの加工技術などを披露するオンライン発表会を初めて行った。本来なら市職員を同学部にも招待する計画だったが、新型コロナウイルスによってインターネット



東海大学海洋学部生に共同研究成果をオンライン発表する（左から）工藤所長、城田主幹

【根室】市は8日、新座を使った形式に変わった。市農産物を出発的に相互協力協定を結ぶ東海大海洋学部ナギタコの加工技術などを披露するオンライン発表会を初めて行った。本来なら市職員を同学部にも招待する計画だったが、新型コロナウイルスによってインターネット

かしたい」と話していた。発表後、学生からは種苗生産によるコスト回収や収益の見通しについて質問があり、工藤所長は「将来的には費用対効果を考えなければいけないが、分らないが生産が分かれば、実があるのでは、まずはそこをスタートしたい」と答えていた。

(山本美穂)

令和3年7月9日 釧路新聞

新聞での紹介

高大連携特別プログラムにおける「大学体験事業」

海の奥深さ 水産の可能性実感

東海大オンライン講義 根室高生初参加



オンライン講義に参加する松沢昂典さん（手前）と島田大地さん

【根室】海洋に関する基礎的な知識を学ぼうと、根室高の生徒2人が18、19の両日、市が相互協力協定を結ぶ東海大海洋学部（静岡市）のオンライン講義に参加した。同学部による高校生向け講義に根室の生徒が参加するのは初めてで、市は水産分野を担う人材育成につなげていきたいという。（川口大地）

ロボット技術など学ぶ

18日の講義には、静岡県や東京都などの高校生計35人が参加。根室高からは、とくに海に興味があるという1年の松沢昂典さん（16）と2年の島田大地さん（16）が出席した。2人は市役所内の大型モニターを使い、駿河湾の底生生物や、水中を撮影するロボット技術についての解説を視聴した。真剣なまなざしで講義に聞き入っていた2人は「今回の講義を今後の進路選択に生かしたい」と話していた。

令和3年9月29日 北海道新聞

海洋学部生による根室高校生向け講演会

海洋生物の研究など紹介

東海大生、根室高で講演



根室高校で開かれた東海大海洋学部の学生による講演会

【根室】市が相互協力協定を結ぶ東海大海洋学部（静岡市）の学生による講演会が12日、根室高校で開かれた。同学部生が根室高の生徒に講演するのは初めてで、市は将来の水産分野を担う人材の育成につなげていきたいとする。市と同学部は2010年6月に協定を締結し、水産加工品の開発などに取り組んできた。（川口大地）

この日は同学部4年の中村咲希さん（22）が講師を務め、根室高の1、2年生300人が参加。中村さんは映像を使って、海洋調査で乗る船や探査機を使った大規模の開発などについて解説し「海洋といっても幅が広い。今回の講義でみなさんの将来の選択肢が広がればうれしい」と話した。生徒たちは真剣な表情で話を聞き、ポイントをノートに書き留めていた。講演会終了後、根室高1年の門馬健太郎さん（15）は「根室にとって海は切っても切り離せない。興味深い話ばかりだった。海洋生物の研究がおもしろそう」と話した。（川口大地）

令和3年10月13日 北海道新聞

令和3年10月28日 釧路新聞

海洋に興味持って 東海大生が講演

根室高

【根室】市産学官連携推進協議会は、市と東海大海洋学部との相互協力協定に基づく人材育成交流事業の一環として講演会を根室高校で開いた。海洋に興味を持ってもらおうと、同学部水産学科食品科学専攻4年の中村咲希さん（22）が大学の授業や生活、商品開発プロジェクト活動などに紹介した。学生気と行動力を支える商品開発プロジェクトで、静岡の特産品桜エビとシラスを使った

12日午前と午後の2回の大福を開発した事例も紹介講演会には1、2年生300人が参加した。中村さんでも広がれば幸いと述べは一日で一番幸せを感じる。門馬健太郎さん（15）は瞬間がもしかしららご飯を「根室に住んでいるので海食べている時で、食品の知と関わることが多く、興味を増やせば人生が楽しく、深い話が多かった。海洋生物を研究するのも面白いと思った」と話していた。



講演する中村さん（島津昌和）

新聞での紹介

海洋学部生による職業体験実習

令和3年11月5日 北海道新聞

【根室】市と相互連携協定を結ぶ東海大海洋学部（静岡市）の学生6人が1～5日、インターンシップ（職業体験実習）として市水産研究所と市水産加工振興センターで学んでいる。同大の学生が根室市でインターンをするのは初めて。市水産研究所で学ぶのは、いずれも同学部水産学科3年の後藤紗弥子さん、由井颯希さん、内海さくらさんの3人。市が種苗放流している花咲ガニの育成管理や、ヤナギダコの卵の管理などを体験する。水産加工振興センターでは、同学科3年の鈴木雄太さん、北村慎哉さん、田村桃子さんの3人が、加工技術や微生物検査などについて実技を通して学ぶ。



根室市役所を訪れた、東海大海洋学部の学生6人

6人は1日、根室市役所を訪れ、石垣雅敏市長と面会した。後藤さんは「大学で学んだ増養殖の技術を、根室の自然と結びつけながら考えたい」と言い、鈴木さんは「根室の環境は静岡と全く異なる。今回の実習でヒントを得て、今後の研究に応用したい」と抱負を語った。（武藤里美）

静岡の東海大生 根室の水産技術学ぶ

市施設で種苗放流、卵管理

令和3年11月5日 釧路新聞

【根室】東海大学海洋学部との相互協力協定に基づく事業の一環として、市産学官連携推進協議会による同学部生のインターンシップ受け入れが5日まで行われている。将来の水産分野を担う人材の育成、交流が目的で、学部生6人が市水産研究所と市水産加工振興センターでそれぞれ研修を行っている。生物生産専攻3年の後藤紗弥子さん、由井颯希さん、内海さくらさんが水産研究所で、食品科学専攻3年の鈴木雄太さん、北村慎哉さん、生物生産専攻3年の田村桃子さんが水産加工振興センターで1日から研修している。

水産分野担う 人材を育成へ

東海大海洋学部 根室でインターン

石垣市長を表敬する 学部生ら



初日の午前中には石垣雅敏市長を表敬訪問。学部生らは、根室の水産物がふるさと納税の返礼品として全国的にも評価が高いことなどの説明を受け、石垣市長は「根室でいろんな体験をしていただきたい」と話していた。水産研究所では、市と同大学が産学官連携研究開発事業で取り組んでいるヤナギダコの増殖に向けた研究成果を聞いたほか、栽培、養殖漁業に関する実務を体験した。（島津昌和）

水産加工振興センターでは水産加工や食品衛生に関する実務体験を行っている。後藤さんは「大学で学んできた水産や増殖の知識を根室市の豊かな自然と結びつけて学びたい」。鈴木さんは「静岡とは違った食環境などからヒントを得たり、こちらの特産物から静岡で応用できるものがあれば吸収させてもらい、今後の研究に生かしたい」と語った。

根室市産学官連携推進協議会

〒087-8711 北海道根室市常盤町2-27
TEL : 0153-23-6111 (内線 2262・2269)

令和8年度 事業計画

1. 産学官連携推進のための普及啓蒙活動

(1) 共同研究成果報告会開催事業

(水産加工振興センターにて予算措置)

産学官連携の研究成果の市民還元の場合として、根室市内水産関係者向けに産学官連携による食品開発の取り組みをテーマとしたセミナー並びに共同研究事業の成果報告会を開催する。

【時 期】 令和9年2月頃

【対象者】 根室市内水産加工業者及び漁協関係者

【講 師】 東海大学海洋学部教授

(2) 「北海道根室産さんま祭り」開催事業

根室市の基幹産業である水産業を東海大学関係者並びに近隣住民に対し広くPRし、東海大学と根室市の相互理解を深めることを目的として、東海大学静岡キャンパス内において、根室産さんまの炭火焼を提供する「北海道根室産さんま祭り」を開催する。

【時 期】 令和8年11月13日(金)【予定】

【場 所】 東海大学静岡キャンパス

【内 容】 根室産さんまの炭火焼、根室産水産加工品を学生及び一般市民に有償提供

(3) 根室産水産物を用いた学食フェア開催事業

東海大学静岡キャンパス内学食において、根室産水産物を活用したメニューを提供する学食フェアを開催し、根室産水産物を通じた地域振興により、東海大学と根室市の関係性の醸成を図る。

【時 期】 「北海道根室産さんま祭り」の開催に併せて実施。

【場 所】 東海大学静岡キャンパス内学食

【内 容】 根室産水産物を使用したメニューを提供

2. 相互協力協定に基づく人材育成交流事業

(1) 相互研究成果等発表会実施事業

東海大学静岡キャンパス生の産学官連携に対する関心を呼び起こすため、根室市職員を東海大学静岡キャンパスへ派遣し、相互研究成果発表会を実施する。

【時 期】 令和8年7月9日（木）

【対象者】 東海大学静岡キャンパス生

【派遣者】 根室市水産研究所職員1名

根室市水産加工振興センター職員1名

(2) 東海大学静岡キャンパス生によるインターンシップ実施事業

東海大学静岡キャンパス生を対象に、根室市内の水産関連施設においてインターンシップの受け入れを実施する。

【時 期】 令和8年8月下旬から9月中旬のうち概ね1週間程度

【受入先】 ①根室市水産研究所（根室市栽培漁業研究センター含む）

②根室市水産加工振興センター

③根室市内の漁業協同組合

④その他、東海大学静岡キャンパス生が実習を希望する施設

(3) 東海大学静岡キャンパス生による根室高校講演会事業

根室高等学校に東海大学静岡キャンパス生を講師として招聘し、大学生活や普段の研究内容等を交えた模擬授業を実施する。

【時 期】 令和8年6月下旬から7月上旬

【対象者】 根室高校生

【講 師】 東海大学静岡キャンパス生

(4) 根室高校生による大学体験事業

根室高校生が東海大学静岡キャンパスを訪問し、大学での講義風景や大学施設等の見学及び体験を行うことで、水産分野、自然環境及び社会的独自性を生かした地域振興に関する分野を専攻する大学を身近に感じてもらい、進路選択の幅を広げる機会提供を行う。

①人文学部ワークショップへの参加

【実施時期】 令和8年8月2日（日）

【場 所】 東海大学静岡キャンパス

【対象者】 根室高校生（2名～3名程度）

②海洋学部高大連携特別プログラムへの参加

【実施時期】 令和8年8月18日（火）・19日（水）

【場 所】 東海大学静岡キャンパス

【対象者】 根室高校生（2名～3名程度）

3. 水産業を活かした地域振興に資する相互研究事業

「昆布漁業体験インターンシップ制度」の確立に向け、東海大学静岡キャンパス生が昆布漁家へ滞在し、昆布作業に従事するモニタリングを実施する。

【期 間】 令和8年7月頃

【受入地域】 歯舞地域・落石地域

【受入人数】 6名程度

4. 相互協力協定に基づく各種事業実施に向けての協議

根室市産学官連携推進協議会規約

(目的)

第1条 この協議会は、根室市における新産業創出を通じた地域振興等の分野で発展を図るため、産学官連携の促進のための普及啓蒙活動等や活発な研究活動の推進を目的とする。

(名称)

第2条 前条の協議会は、根室市産学官連携推進協議会（以下「協議会」という。）と称する。

(設置)

第3条 協議会は、平成22年6月締結した「根室市と東海大学海洋学部との相互協力協定」の趣旨に賛同する産学官各界の代表者を委員として設置する。
2 産学官各界の代表者は、協議会の組織後に必要があると認める者を委員として加えることができる。

(公表)

第4条 協議会の公表は、根室市の広報及びホームページへの掲載の他、必要があると認めるときは新聞掲載等による。

(事務事業)

第5条 協議会は、第1条の目的を達成するため、次に掲げる事務を行う。

- (1) 産学官連携の促進のための普及啓蒙活動に関すること。
- (2) 産学官連携の促進のための情報交換に関すること。
- (3) 前各号に掲げるもののほか、産学官連携に係る研究活動の活性化に関すること。

(役員及び職務)

第6条 協議会に次の役員を置く。

- (1) 会長
- (2) 副会長
- (3) 監事

2 役員は、委員の中から互選により選任する。

3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

4 会長は、会務に対する諮問を受けるため顧問を置くことができる。

5 役員任期は、2年とし再任を妨げないものとする。

(オブザーバー)

第7条 協議会は、第5条に規定する事務事業に関し、必要に応じて意見を求めるため、オブザーバーを置くことができる。

2 会長は、オブザーバーを会議に招集し、発言を求めることができる。

(会議の招集)

第8条 協議会の会議（以下「会議」という。）は、会長が招集する。

2 会長は委員の2分の1以上の者から会議の招集の要請があるときは、会議を招集しなければならない。

3 会長は、会議を招集するときは、会議の日時及び開催場所並びに会議に付すべき事項をあらかじめ委員に通知しなければならない。

(会議の運営)

第9条 会議は委員の過半数の出席がなければ、開くことができない。

2 会長は、会議の議長となる。

3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会議の議事、その他会議の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

(書面議決)

第10条 会議を開くことができないときは、会長は期限を指定し、書面により議決することができる。

(幹事会の設置)

第11条 協議会は、その事務の一部について、必要な協議又は調整を行うため、幹事会を置くことができる。

2 幹事会の組織、運営その他必要な事項は、会長が別に定める。

(協議結果の尊重)

第12条 協議会の委員は、会議において協議が整った事項について、その協議結果を尊重しなければならない。

(事務局)

第13条 協議会の事務を処理するため、根室市に事務局を置く。

2 事務局長は、根室市水産経済部長とする。

(経費)

第14条 協議会に要する経費は、根室市負担金の収入をもってこれに充てる。

(会計年度)

第15条 協議会の会計年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(財務に関する事項)

第16条 協議会の予算の編成、現金の出納その他財務に関し必要な事項は、会長が別に定める。

(解散及び解散した場合の会計の処分)

第17条 協議会は、第5条各項の事業の終了をもって解散する。

2 協議会が解散した場合においては、協議会の収支は、解散の日をもって打ち切り、会長であった者がこれを決算し、監事であった者がこれを監査する。

(その他必要事項)

第18条 この規約に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この規約は、平成23年8月1日から施行する。

附 則

この規約は、公布の日から施行し、令和2年4月1日から適用する。

根室市産学官連携推進協議会委員名簿

1 協議会規約第3条に規定する委員は以下のとおり

職名	氏名	摘要
東海大学副学長（静岡キャンパス長）	川崎 一平	
東海大学客員教授	山田 吉彦	
根室市長	石垣 雅敏	
根室商工会議所会頭	山田 康志	
根室水産協会会長理事	高岡 義久	
根室漁業協同組合代表理事組合長	大坂 鉄夫	
歯舞漁業協同組合代表理事組合長	小倉 啓一	
落石漁業協同組合代表理事組合長	庄林 満	
根室湾中部漁業協同組合代表理事組合長	高橋 敏二	
根室市観光協会会長	岡野 将光	
大地みらい信用金庫理事長	伊藤 哲也	

2 協議会規約第7条に基づく「根室市産学官連携推進アドバイザー」は以下のとおり

職名	氏名	摘要
学校法人東海大学顧問・評議員	河部 宣弘	

3 協議会規約第11条に基づく幹事会は以下のとおり

別途、会長が必要に応じて、「産業経済界」「東海大学静岡キャンパス」等、上記委員の所属職員で組織する。
--

4 協議会規約第13条に規定する事務局の所在地は以下のとおり

役職名	職名	氏名	摘要
事務局長	根室市水産経済部長	新 宏之	

（事務局所在）

〒087-8711 根室市常盤町2丁目27番地 根室市水産経済部内
 根室市産学官連携推進協議会事務局
 電話（0153）23-6111 FAX（0153）24-8692